

株 主 各 位

## 第47期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

第47期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）

- ①連結株主資本等変動計算書
- ②連結計算書類の連結注記表
- ③株主資本等変動計算書
- ④計算書類の個別注記表

上記の事項につきましては、法令及び当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.jast.jp/ir/>）に掲載することにより、株主の皆様提供しております。

日本システム技術株式会社

## 連結株主資本等変動計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,076,669	994,621	4,188,119	△266,539	5,992,871
当期変動額					
剰余金の配当			△146,944		△146,944
親会社株主に帰属する当期純利益			317,986		317,986
自己株式の取得				△89,915	△89,915
自己株式の処分		91,074		79,403	170,478
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	91,074	171,042	△10,511	251,605
当期末残高	1,076,669	1,085,695	4,359,161	△277,050	6,244,476

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	126,589	△10,428	91,694	207,856	45,835	6,246,562
当期変動額						
剰余金の配当						△146,944
親会社株主に帰属する当期純利益						317,986
自己株式の取得						△89,915
自己株式の処分						170,478
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△12,421	△26,917	△31,531	△70,870	△8,824	△79,695
当期変動額合計	△12,421	△26,917	△31,531	△70,870	△8,824	171,909
当期末残高	114,167	△37,345	60,163	136,986	37,010	6,418,472

## 連結注記表

<連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等>

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 12社

連結子会社の名称

JAST TECHNIQUES PTE. LTD.  
JASTEC (THAILAND) CO., LTD.  
アルファコンピュータ株式会社  
株式会社新日本ニーズ  
SafeNeeds株式会社  
桂林安信軟件有限公司  
上海嘉峰信息科技有限公司  
株式会社アイエスアール  
JAST Asia Pacific Co., Ltd  
Virtual Calibre SDN. BHD.  
Virtual Calibre MSC SDN. BHD.  
Virtual Calibre Consulting SDN. BHD.

上記のうち、JAST Asia Pacific Co., Ltdにつきましては、当連結会計年度において新たに設立したことにより、Virtual Calibre SDN. BHD. 及びVirtual Calibre MSC SDN. BHD. につきましては、当連結会計年度に株式を取得したことにより、また、Virtual Calibre Consulting SDN. BHD. につきましては、Virtual Calibre MSC SDN. BHD. が議決権の30%を取得し、経営管理体制の過半数を当社グループ又はVirtual Calibre SDN. BHD. 及びVirtual Calibre MSC SDN. BHD. のメンバーで占める等の状況により、連結の範囲に含めております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用対象会社はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち在外連結子会社8社の決算日は2018年12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、2019年1月1日から連結決算日2019年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、国内連結子会社4社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

##### イ 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

##### ロ その他有価証券

##### ・時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

##### ・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ② たな卸資産

##### ・商品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

- ・製品  
総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ・仕掛品  
個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ・貯蔵品  
最終仕入原価法を採用しております。

## (2) 固定資産の減価償却の方法

### ①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	10年～35年
その他	4年～10年

### ②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法を採用しております。

### ③リース資産

イ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

ロ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### ④投資その他の資産

その他（賃貸不動産）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は47年（建物）であります。

## (3) 引当金の計上基準

### ①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### ②賞与引当金

当社及び連結子会社の一部は従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。

### ③役員株式給付引当金

役員株式給付規定に基づく当社役員への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

### ④役員退職慰労引当金

国内連結子会社の一部は役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

### ⑤役員賞与引当金

当社及び連結子会社の一部は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額の当連結会計期間負担額を計上しております。

### ⑥工事損失引当金

受注制作ソフトウェア開発に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において翌期以降に損失の発生が見込まれ、かつ、金額を合理的に見積もることができる契約について、損失見込額を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法によりそれぞれ発生の際連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により発生時から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

②受注製作ソフトウェアに係る収益及び原価の計上基準

- ・当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

- ・その他の契約

工事完成基準

③のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年から8年間の均等償却を行っております。

④消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

<表示方法の変更に関する注記>

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

<連結貸借対照表に関する注記>

1. 資産に係る減価償却累計額

(1)有形固定資産

756,838千円

<連結損益計算書に関する注記>

1. 和解金

2015年11月10日付で当社が提起を受けておりました、株式会社プレシオンとの医療保険審査システムに関する業務提携基本契約等に基づくインセンティブの支払いに関する訴訟におきまして、2019年5月10日付で和解が成立しました。

当該和解の成立に伴い、本訴訟は終局的に解決するとともに、当連結会計年度において和解金380,000千円を特別損失として計上しております。

<連結株主資本等変動計算書に関する注記>

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式

5,612,230株

2. 配当に関する事項

(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効 力 発 生 日
2018年5月11日 取締役会	普通株式	146,944	28	2018年3月31日	2018年6月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2019年4月26日開催の取締役会において、普通株式の配当に関する事項を次のとおり決議しております。

①配当金の総額	149,982千円
②1株当たり配当額	28円
③基準日	2019年3月31日
④効力発生日	2019年6月4日

なお、配当原資については、利益剰余金としております。

## <金融商品に関する注記>

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、必要な資金については主に自己資金で賄っておりますが、資金繰りの状況や金融情勢を勘案し、銀行からの借入によっても資金を調達しております。一時的な余資は元本保証、固定金利の預金等、安全性の高い金融資産に限定して運用しております。また、デリバティブ取引は行っておりません。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

与信管理規程に従い、担当部署が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

##### ②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

##### ③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

担当部署が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	4,260,305	4,260,305	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,341,029	4,341,029	—
(3) 投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	201,615	203,040	1,424
② その他有価証券	487,173	487,173	—
(4) 差入保証金	414,231	416,225	1,993
資産計	9,704,355	9,707,773	3,417
(1) 買掛金	1,128,311	1,128,311	—
(2) 短期借入金	1,543,696	1,543,696	—
(3) 未払法人税等	234,023	234,023	—
(4) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）	20,300	20,323	23
負債計	2,926,331	2,926,354	23

(注) 金融商品の時価の算定方法

### 資 産

#### (1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。(3)投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。

#### (4) 差入保証金

差入保証金の時価は、将来返還されない保証金を控除した金額を、国債の利回り等の利率で割り引いた現在価値により算定しております。

### 負 債

#### (1) 買掛金、(2)短期借入金、並びに(3)未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (4) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## <退職給付会計注記>

### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職金規程に基づく退職一時金制度、確定給付型の企業年金制度及び確定拠出型の企業年金制度があります。また、当社及び株式会社アイエスアールは全国情報サービス産業企業年金基金に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結計算書類上、掛金拠出額36,711千円を費用計上しております。

アルファコンピュータ株式会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、日本ITソフトウェア企業年金基金に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結計算書類上、掛金拠出額2,142千円を費用計上しております。

株式会社新日本ニーズは、中小企業退職金共済に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結計算書類上、掛金拠出額1,820千円を費用計上しております。

なお、在外連結子会社のうち1社は、現地国制度に基づく退職金制度を採用しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

#### (全国情報サービス産業企業年金基金)

##### (1) 複数事業主制度の直近の積立状況 (2018年3月31日現在)

年金資産の額	248,188,774千円
年金財政上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	203,695,726千円
差引額	44,493,048千円

##### (2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

0.60% (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

##### (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、下記のとおりであります。

過去勤務債務残高	△68,891千円
当年度剰余金	44,561,939千円
合計	44,493,048千円

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

#### (日本ITソフトウェア企業年金基金)

##### (1) 複数事業主制度の直近の積立状況 (2018年3月31日現在)

年金資産の額	28,441,851千円
年金財政上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	27,649,756千円
差引額	792,095千円

##### (2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

0.13% (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

##### (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、下記のとおりであります。

別途積立金	562,099千円
当年度剰余金	229,995千円
合計	792,095千円

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

## 2. 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	1,692,865千円
勤務費用	132,117千円
利息費用	17,393千円
数理計算上の差異の発生額	4,809千円
退職給付の支払額	△74,302千円
その他	△1,487千円
退職給付債務の期末残高	1,771,395千円

### (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	1,308,138千円
期待運用収益	32,703千円
数理計算上の差異の発生額	△13,412千円
事業主からの拠出額	49,910千円
退職給付の支払額	△20,695千円
年金資産の期末残高	1,356,643千円

### (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	813,723千円
年金資産	△1,356,643千円
	△542,920千円
非積立型制度の退職給付債務	957,672千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	414,751千円
退職給付に係る負債	957,672千円
退職給付に係る資産	△542,920千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	414,751千円

### (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	132,117千円
利息費用	17,393千円
期待運用収益	△32,703千円
数理計算上の差異の費用処理額	△27,071千円
過去勤務費用の費用処理額	△154千円
確定給付制度に係る退職給付費用	89,582千円

### (5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

過去勤務費用	△154千円
数理計算上の差異	△45,293千円
合計	△45,447千円

### (6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	593千円
未認識数理計算上の差異	86,121千円
合計	86,715千円

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	54%
株式	42%
現金及び預金	4%
合 計	100%

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

割引率 1.07%

長期期待運用収益率 2.5%

一時金選択率 100%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、75,570千円であります。

<税効果会計に関する注記>

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

		(単位：千円)
繰延税金資産		
賞与引当金		221,156
未払費用		33,590
未払金		118,884
未払事業税		20,084
工事損失引当金		11,410
棚卸資産		17,387
長期未払金		112,753
役員退職慰労引当金		4,470
役員株式給付引当金		6,139
退職給付に係る負債		288,491
貸倒引当金		16,667
資産除去債務		37,832
繰越欠損金		61,747
その他		41,668
繰延税金資産小計		992,284
評価性引当額		△246,693
計		745,591
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金		50,386
退職給付に係る資産		166,242
その他		27,018
計		243,646
繰延税金資産の純額		501,944

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との主要な差異原因

(1) 法定実効税率	30.6%
(調整)	
交際費等永久差異項目	2.6%
住民税均等割	1.4%
評価性引当額の増加	8.2%
税額控除	△10.2%
のれん償却額	2.5%
親会社と連結子会社の税率差異	0.6%
その他	0.5%
(2) 税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.2%

<1株当たり情報に関する注記>

1. 1株当たり純資産額	1,202円34銭
2. 1株当たり当期純利益	60円58銭

## <企業結合に関する注記>

### 取得による企業結合

#### 1. 企業結合の概要

##### (1) 被取得企業の名称およびその事業の内容

- 1) Virtual Calibre SDN. BHD.  
事業内容：ソフトウェア開発、コンサルティング
- 2) Virtual Calibre MSC SDN. BHD.  
事業内容：ソフトウェア開発、マルチメディアアプリ
- 3) Virtual Calibre Consulting SDN. BHD.  
事業内容：ITマネジメント、コンサルティング

##### (2) 企業結合を行った主な理由

当社グループは、JAST TECHNIQUES PTE. LTD. (シンガポール) 及びJASTEC (THAILAND) CO., LTD. (タイ) を中心に25年以上にわたりASEAN地域でビジネスを展開しております。ASEAN地域は、今後も引き続き高い成長率と消費市場としての中間層の拡大が期待でき、市場としての可能性は高いものと考えております。

Virtual Calibreグループを当社グループに迎え入れることで、マレーシアのみならずASEAN全域へのビジネスの基盤拡大、在ASEANの当社子会社の事業拡大及び中長期的な日本でのSAP事業拡大のチャンスが広がり、当社グループの成長力を更に促進できるものと判断し、Virtual Calibreグループを子会社とすることにいたしました。

##### (3) 企業結合日

2018年10月11日及び2018年11月26日 (株式取得日)  
2018年9月30日 (みなし取得日)

##### (4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

##### (5) 結合後企業の名称

変更ありません。

##### (6) 取得した議決権比率

- 1) Virtual Calibre SDN. BHD.  
100%
- 2) Virtual Calibre MSC SDN. BHD.  
100%
- 3) Virtual Calibre Consulting SDN. BHD.

Virtual Calibre MSC SDN. BHD. が議決権の30%を取得いたしました。また、経営管理体制の過半数を当社グループまたはVirtual Calibreグループの他の2社のメンバーが占めるなどの状況により、同社についても当社の連結決算対象会社を含めております。

##### (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価として株式を取得したためであります。

#### 2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2018年10月1日から2018年12月31日まで

#### 3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,653,094千円
取得原価		1,653,094

#### 4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 68,007千円

#### 5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

##### (1) 発生したのれん

999,538千円

なお、のれんは、当連結会計年度末においては、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力によるものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

8年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	748,266千円
固定資産	20,920千円
資産合計	769,187千円
流動負債	85,970千円
固定負債	6,758千円
負債合計	92,729千円

<追加情報に関する注記>

役員退職慰労引当金

当社は、2018年5月11日開催の取締役会において、2018年6月26日開催の第46期定時株主総会終結の時をもって従来の役員退職慰労金制度を廃止することを決議し、同株主総会で役員に対する退職慰労金の打ち切り支給について承認可決されました。支給時期につきましては、当該役員の退任時とする予定であります。

これに伴い、固定負債の「役員退職慰労引当金」に計上しておりました当社の役員退職慰労引当金の全額（当事業年度における役員退職慰労引当金繰入額4,845千円含む）を取崩し、打ち切り支給額の未払分356,395千円を長期未払金として固定負債の「その他」に含めて表示しております。

株式給付信託（BBT）

当社は、2018年6月26日開催の第46回定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金制度を廃止し、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリット並びに株価下落のリスクを共に株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値増大に貢献する意識を高めることを目的として、「株式給付信託（BBT）（＝Board Benefit Trust）」（以下「本制度」といいます。）を導入しております。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。）を通じて取得され、当社取締役（社外取締役を除きます。以下断りがない限り、同じとします。）に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下「当社株式等」といいます。）が本信託を通じて給付される株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となります。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末の当該自己株式の帳簿価額は89,915千円、株式数は49,000株であります。

# 株主資本等変動計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,076,669	1,038,308	—	1,038,308	32,665	3,659,000	677,892	4,369,557	△266,539	6,217,996
当期変動額										
別途積立金の積立						350,000	△350,000	—		—
剰余金の配当							△146,944	△146,944		△146,944
当期純利益							330,491	330,491		330,491
自己株式の取得									△89,915	△89,915
自己株式の処分			91,074	91,074					79,403	170,478
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	—	—	91,074	91,074	—	350,000	△166,453	183,546	△10,511	264,109
当期末残高	1,076,669	1,038,308	91,074	1,129,382	32,665	4,009,000	511,439	4,553,104	△277,050	6,482,105

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	126,589	126,589	6,344,585
当期変動額			
別途積立金の積立			—
剰余金の配当			△146,944
当期純利益			330,491
自己株式の取得			△89,915
自己株式の処分			170,478
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△12,421	△12,421	△12,421
当期変動額合計	△12,421	△12,421	251,688
当期末残高	114,167	114,167	6,596,273

## 個別注記表

### <重要な会計方針に係る事項に関する注記>

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ①子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。
- ②満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）を採用しております。
- ③その他有価証券
  - ・時価のあるもの  
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。
  - ・時価のないもの  
移動平均法による原価法を採用しております。

##### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ①商品 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ②製品 総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ③仕掛品 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ④貯蔵品 最終仕入原価法を採用しております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10年～35年

工具、器具及び備品 4年～10年

##### (2) 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法を採用しております。  
なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法を採用しております。

##### (3) リース資産

- ①所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産 自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
- ②所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### (4) 賃貸不動産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
賃貸不動産（建物） 47年

### 3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により翌事業年度から費用処理することにしております。  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により発生時から費用処理することにしております。
- (4) 役員株式給付引当金 役員株式給付規定に基づく当社役員への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- (5) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額の当期負担額を計上しております。
- (6) 工事損失引当金 受注制作ソフトウェア開発に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末において翌期以降に損失の発生が見込まれ、かつ、金額を合理的に見積もることができる契約について、損失見込額を計上しております。

### 4. 収益及び費用の計上基準

- (1) 受注製作ソフトウェアに係る収益及び原価の計上基準
- ① 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約 工事進行基準  
（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- ② その他の契約 工事完成基準

### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- (1) 退職給付に係る会計処理  
退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
- (2) 消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### <表示方法の変更に関する注記>

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

#### <貸借対照表に関する注記>

##### 1. 偶発債務

関係会社の金融機関からの借入に対する債務保証

JAST TECHNIQUES PTE. LTD.	62,236千円
アルファコンピュータ株式会社	1,000,000千円
株式会社新日本ニーズ	70,000千円
株式会社アイエスアール	20,300千円

外貨建債務保証は、決算日の為替相場により円換算しております。

なお、JAST TECHNIQUES PTE. LTD.、アルファコンピュータ株式会社及び株式会社新日本ニーズが金融機関との間で締結している当座貸越契約について当社が保証を行っており、当該当座貸越枠を記載しております。

##### 2. 資産に係る減価償却累計額

(1)有形固定資産	683,145千円
-----------	-----------

##### 3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

(1)関係会社に対する短期金銭債権	61,419千円
(2)関係会社に対する短期金銭債務	66,106千円

##### 4. 取締役、監査役に対する金銭債務

(1)取締役、監査役に対する長期金銭債務	356,395千円
----------------------	-----------

#### <損益計算書に関する注記>

##### 1. 関係会社との取引高

###### (1)営業取引による取引高

①営業収入	99,458千円
②営業費用	364,221千円
(2)営業取引以外の取引による収入	68,862千円

##### 2. 和解金

2015年11月10日付で当社が提起を受けておりました、株式会社プレシオンとの医療保険審査システムに関する業務提携基本契約等に基づくインセンティブの支払いに関する訴訟におきまして、2019年5月10日付で和解が成立しました。

当該和解の成立に伴い、本訴訟は終局的に解決するとともに、当事業年度において和解金380,000千円を特別損失として計上しております。

#### <株主資本等変動計算書に関する注記>

##### 1. 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式	304,710株
------	----------

<税効果会計に関する注記>

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

		(単位：千円)
繰延税金資産		
賞与引当金		197,394
未払費用		30,200
未払金		118,884
未払事業税		19,832
工事損失引当金		11,410
長期未払金		112,753
役員株式給付引当金		6,139
退職給付引当金		273,117
貸倒引当金		44,285
資産除去債務		33,588
関係会社株式		33,728
その他		16,226
繰延税金資産小計		897,562
評価性引当額		△225,669
繰延税金資産合計		671,892
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金		50,386
前払年金費用		141,022
その他		22,156
計		213,565
繰延税金資産の純額		458,327

<関連当事者との取引に関する注記>

1. 子会社及び関連会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注) 2	科目	期末残高
子会社	アルファコンピュータ株式会社	所有 直接100%	役員の兼任 債務保証	債務保証 (注) 1	1,000,000	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. アルファコンピュータ株式会社の金融機関からの融資枠に対して、当社が1,000,000千円の債務保証を行ったものであります。なお、2019年3月31日現在、同社の銀行借入金残高はございません。

2. 取引金額には消費税等を含めておりません。

<1株当たり情報に関する注記>

1. 1株当たり純資産額	1,242円82銭
2. 1株当たり当期純利益	62円96銭

<追加情報に関する注記>

役員退職慰労引当金

当社は、2018年5月11日開催の取締役会において、2018年6月26日開催の第46期定時株主総会終結の時をもって従来の役員退職慰労金制度を廃止することを決議し、同株主総会で役員に対する退職慰労金の打ち切り支給について承認可決されました。支給時期につきましては、当該役員の退任時とする予定であります。これに伴い、固定負債の「役員退職慰労引当金」に計上しておりました当社の役員退職慰労引当金の全額を取崩し、打ち切り支給額の未払分356,395千円を固定負債の「長期未払金」に含めて表示しております。

株式給付信託（BBT）

当注記につきましては、連結注記表<追加情報に関する注記>と同内容のため、記載を省略しております。